

MCI Test: Approved 1 March 2017, localized July 31, 2018



マスター・フライキャスティング・インストラクター ・・・パフォーマンステスト・・・

受験者名

日付

リード試験官

場所

セカンド試験官 (1)

セカンド試験官 (2)

マスター・フライキャスティング・インストラクターを受験するためには、FFIサーティファイド・インストラクター (CI) の資格を保有していることが前提です。ただし、EFFA, GAIA, AAPGAI, APGAI アイルランド、SGAIC などの団体が運営する試験資格を保有する場合、資格要件は免除される場合があります。その場合は事前に本部まで申請を出してください。

試験の構成

マスター・フライキャスティング・インストラクター試験は3セクションから構成され、それらすべてに合格することが要求されます。具体的にはセクション1 (キャスティング・パフォーマンス 1A および 1B)、セクション2 (ティーチング・パフォーマンス)、セクション3 (インタビューおよびディスクッション) となります。セクション1のタスクに関しては、2つまで不合格が許されています。セクション2のタスクは全問合格が前提です。次のセクションに行くためには、前のセクションをクリアしなければなりません。セクションが始まったら、途中結果のいかんに関わらず、その中のタスクすべてを行うこと。セクションを行う順番は、番号の通りとします。また、セクション1Aは1Bの前に行います。「ウォーターキャスト」は、流水もしくは止水面を使用すること。試験の開始後は、いっさいのコーチングが許されません。

採点法

P (合格)、B (ボーダーライン)、F (不合格) の3段階評価を採用します。「ボーダーライン」とは、不合格ではないまでも、マスターの知識技術としては疑問がのこるというレベルです。Bは、2つでF1つとみなされます。複数の内容が存在するタスクにおいては、すべてを完了しなければ合格できません。

セクション1はAとBから構成され、この2部の合計でセクション1の判断が行われます。

各セクションが終了した段階で、試験官はチーム全体の合意のもとに、タスクの再試行を要請する場合があります。次のセクションへ進むか否かの判断は試験官の合議によって行い、これが覆されることはありません。

採点用紙に採用されている表組は、パフォーマンスを評価するためのものです。

タックル要件

- 受験者は、すべてのタックルを用意します。セクション2および3で使用する、補助的な用具を持ち込むことは許されます。
- タスク 22 (沈んだラインおよびオーバルキャスト) で使われるものを除き、すべてのタスクは同じタックルを使用します。試験中にタックルが故障した場合、試験官チームの承認を得たうえで交換することはできません。
- ロッド：最長9フィート、最大7番指定。受験者はセクション1Aと1Bで異なったロッドを使用することができます。各セクション内で使用するロッドの変更は認められません。しかしながら、タスク22のみ別のロッドの使用は認められます。
- ライン：一般に入手が可能な市販品であること。
- フローティングライン：最大でAFFTAの規格の7番。受験者はセクション1Aと1Bで異なるラインの使用ができます。しかしながら、各セクション内では全て同じラインを使用しなくてはなりません(タスク22は除く)。もし、セクション1B様に別のラインが選択された場合は、それも最大#7としてデザインされたものでなくてはなりません。視認性の高いラインが推奨されます。
- シンキングライン：最大で7番、タイプ2以上。フルシンキングないし7フィート以上のシンクティップを備える一体型ラインであること。
- リーダー/フライ：フローティングライン・タスクでは7フィート半以上。シンキングラインでは5フィート以上。リーダーの素材はナイロンないしフロロカーボンのモノフィラメントであること。ポリリーダー、ブレイデッドリーダー、金属製リーダーなどは禁止です。フライは、ヤーンだけをティペットに結んだもの。

試験に関する諸情報

- 試験開始時、受験者は試験官に対して、どちらの手が利き手を伝えます。
- キャストする方向は、受験者の意向を反映します。風向きが大きく変わったら、コースの向きの変更を要請することが可能です。
- コースのレイアウト：メジャーの上に、必要なターゲットを配置していきます。メジャーは85ft (25.9m)まで伸ばします。
- アキュラシーのタスクで使用する距離をラインにマークすることは禁じられています。試験官は、セクション1Aが終了した段階で、ラインの50フィート(15.2m)および60フィート(18.3m)位置にマークします。
- 各タスクで指定されている距離は、キャストの前足からフライまでとします。
- フォルスキャストは、フォワードとバック各1回でセットです。いずれも空中で行いません。
- 説明を要求される各タスクの冒頭で、受験者は、これから見せるステップやキャストの概要を60秒以内で説明し、それからキャスト実演に移ります。
- オフショルダーキャストにおいて、ロッドティップはロッドハンドと反対側の肩の真上か、さらに遠くを動かさなければなりません。ロッドを握った手は通常位置のまま、腰だけを曲げてロッドティップの位置を変更するのは、オフショルダーキャストとは認められません。
- ラインのホールとシュートは、タスク内で認められている場合を除き、原則として禁止です。
- ホールを使わない場合、フライラインはロッドハンドに握り込みます。
- キャストが基準を満たしているなら、キャストスタイルは問いません。
- セクション2(ティーチング)においては、試験官の1人が生徒役を受け持ちます。デモンストレーションのためにティーチング補助具を使用できるのは、セクション2および3のみ。

- 試験中は、手書き、印刷物、電子データといった形式を問わず、いかなる情報も参照してはいけません。
- ロールキャストおよびスペイキャストを除き、ループサイズは、ネイルノットがロッドティップ位置を通過するとき、ループ先端部から3-4フィートの場所で測定します。
- ロールキャストおよびスペイキャストのループサイズは、ループ先端部から3-4フィートの場所で測定します。
- タスクにおいて指定されている場合を除き、楕円キャスト（別名ベルジャンキャスト、ゲベッツロイターキャストなど）を使うことはできません。

パフォーマンス基準について

受験者は、マスター・フライキャストイング・インストラクターという名にふさわしい、生徒や他のインストラクターに信頼して貰えるような高いレベルのパフォーマンスを示さなければなりません。初回のトライで課題をこなし、質の高いデモンストレーションを行い、また要請に応じて、キャストの理論やステップに関する明快で簡潔な説明を行う能力を備えていることが期待されます。何度もキャストを繰り返してやっとタスクがクリアできるというレベルは、MCIにふさわしいものではありません。

キャストの欠点診断やデモンストレーションの場合、またタスク内で指定されている場合を除き、ループに関する以下の要件はすべてのセクションに適用されます。

- フライレグ（トップレグ）が比較的ストレートであること。
- ロッドレグ（ボトムレグ）にあまりスラックが入っていないこと。
- フォワードとバックで、サイズと幅が大きく異なること。
- フォワードとバックがおよそ180度の位置関係にあること。
- 幅が3フィート以下であること。
- テイリングしていないこと。
- 形やサイズに関して、試験官が見やすいように作ること。

追加的要件

- フライラインとリーダーは完全に伸びきり、比較的ストレートな状態で落ちること。
- 最後のフォワードキャストおよびウォーターキャスト各種以外を除き、ライン、リーダー、フライがキャスト中に地面や水面に接触しないこと。
- アンカーは直線的で、キャストする向きに作られていること。
- プレゼンテーション・キャストはすべて、水面上で伸びきること。
- ロールキャストおよびスペイキャストのタスクにおいて、アンカーポイント（フライラインからリーダー接続部まで）は体の前方、ロッド1本半の距離以内に置かれていること。
- キャストの最中、ラインのテンションは適切に維持されていること。

芝生でのパフォーマンス・タスク --- セクション 1A

タスク 1 オーバーヘッド・キャスト

簡単な説明に続き、ナローループのフォルスキャストを6回行いなさい。ラインは50フィート。

合格基準

- 大枠は、冒頭にあるパフォーマンス基準のとおり。

説明の質 合致した 実演	1回目の バック キャスト	直線的な アッパー レグ	ループの サイズ	バックと フォアの ループ 関係	180°の 原則	ティッキ ング		所定のパ フォーマ ンス基準	最終判断 P B F

コメント

タスク 2 オーバーヘッド・キャスト (ワイドからナロー)

簡単な説明に続き、フォルスキャストを3段階でワイドループから徐々にタイトループにしなさい。ラインは50フィート(15.2m)。

- 1回目のバックキャストはワイドループであること。
- 各段階で、3回フォルスキャストを行う。

合格基準

- 大枠は、冒頭にあるパフォーマンス基準のとおり。
- 各ループサイズは、はっきりと違いが見えること。
- 受験者は、ワイドからミディアム、ミディアムからナローに移行するタイミングを試験官に伝える。
- このタスクでの「ワイドループ」とは幅8フィート(2.44m)程度のもの。ミディアムループとは6フィート(1.80m)程度、タイトループは幅3フィート(0.91m)以下。

説明の質 合致した 実演	1回目の バック キャスト	直線的な アッパー レグ	ループの サイズ	バックと フォアの ループ 関係	180°の 原則	ティッキ ング		所定のパ フォーマ ンス基準	最終判断 P B F

コメント

タスク 3 キャスト面の変更

簡単な説明に続き、1時、2時、3時の位置でキャストしなさい。次にオフショルダー・キャストとして11時、10時、9時の位置でキャストしなさい。各位置で2回フォールスキャストを行うこと。ラインは40フィート(12.2m)。

- キャスト面の変更を行うのは、フォワードキャスト、バックキャストいずれでも可。
- キャスト面の変更は、ロッドを振る面を変えることにより行う。体を曲げて行わないこと。

合格基準

- 冒頭に説明したパフォーマンス基準・要件が適用される。
- ロッドレグとフライレグが同一平面上にあること。

説明の質 合致した 実演	1回目の バック キャスト	直線的な アッパー レグ	ループの サイズ	バックと フォアの ループ 関係	180°の 原則	ティッキ ング		所定のパ フォーマ ンス基準	最終判断 P B F

コメント

タスク4 スラックライン・ウェーブ

簡単な説明に続き、2種類のスラックライン・レイアウトを実演しなさい。最初は連続する大きなスラックウェーブ、次に連続する小さなスラックウェーブを作る。ラインは50フィート(15.2m)。

合格基準

- 冒頭に説明したパフォーマンス基準・要件が適用される。
- スラックウェーブはサイズと形が統一されていて、キャストの向きに並んでいること。
- 大きなスラックウェーブとは、左右の頂点間が5フィート(1.50m)から6フィート(1.80m)のもの。小さなスラックウェーブとは、左右の頂点間が2フィート(0.60m)から3フィート(0.90m)のもの。
- 大きなスラックウェーブを作る場合、ウェーブの数は3つ以上あること。小さなスラックウェーブを作る場合、6つ以上あること。ウェーブは、ライン全体に均等配置されていること。

説明の質 合致した 実演	1回目の バック キャスト	直線的な アッパー レグ	ループの サイズ	バックと フォアの ループ 関係	180°の 原則	ティッキ ング		所定のパ フォーマ ンス基準	最終判断 P B F

コメント

タスク5 ターゲットをかわすメンディング

簡単な説明に続き、15フィート(4.60m)、25フィート(7.60m)、35フィート(10.70m)位置に置いたターゲットをエアリアル・メンドでかわすキャストを実演する。ラインは、タスクを開始するまでに50フィート(15.20m)以上を出しておくこと。各ターゲットにおけるメンドの向きは、試験官が指定する。

合格基準

- 冒頭に説明したパフォーマンス基準・要件が適用される。
- メンドの頂点は、ターゲットの前後2フィート(0.61m)以内に入っていること。
- ラインの、メンドが施された部分の合計長は20フィート(6.10m)を超えないこと。
- 手前2つのメンドは、幅が最低2フィート(0.61m)あること。一番遠いメンドは、最低1フィート(0.30m)あること。
- ロッドティップから出てフライに至るラインの形は、メンドを施した部分を除いて直線に近く保たれ、メジャーに沿っていること。

説明の質 合致した 実演	1回目の バック キャスト	直線的な アッパー レグ	ループの サイズ	バックと フォアの ループ 関係	180°の 原則	ティッキ ング		所定のパ フォーマ ンス基準	最終判断 P B F

コメント

タスク6 カーブライン・プレゼンテーション(左)

簡単な説明に続き、ターゲットを回って左にカーブさせるプレゼンテーションのやり方を2種類実演しなさい。ラインの長さは45フィート(13.70m)とする。1種類は、ロッドを水平に近い面で振るもの、もう1種類はロッドを垂直に近い面で振るもの。

合格基準

- 冒頭に説明したパフォーマンス基準・要件が適用される。
- ラインとリーダーは、30フィート(9.14m)位置に設置したターゲットを回り込んで、45°以上の角度変換が生まれていること。
- 着地したリーダーは直線状でもカーブしていても良いが、過剰なスラックは入らないこと。

説明の質 合致した 実演	1回目の バック キャスト	直線的な アッパー レグ	ループの サイズ	バックと フォアの ループ 関係		ティッキ ング		所定のパ フォーマ ンス基準	最終判断 P B F

コメント

タスク7 カーブライン・プレゼンテーション(右)

簡単な説明に続き、ターゲットを回って右にカーブさせるプレゼンテーションのやり方を2種類実演しなさい。ラインの長さは45フィート(13.70m)とする。1種類は、ロッドを水平に近い面で振るもの、もう1種類はロッドを垂直に近い面で振るもの。

合格基準

- 冒頭に説明したパフォーマンス基準・要件が適用される。
- ラインとリーダーは、30フィート(9.14m)位置に設置したターゲットを回り込んで、45°以上の角度変換が生まれていること。
- 着地したリーダーは直線状でもカーブしていても良いが、過剰なスラックは入らないこと。

説明の質 合致した 実演	1回目の バック キャスト	直線的な アッパー レグ	ループの サイズ	バックと フォアの ループ 関係		ティッキ ング		所定のパ フォーマ ンス基準	最終判断 P B F

コメント

タスク8 オンショルダ―・アキュラシー

簡単な説明に続き、アキュラシー・キャストを実演しなさい。設置された3つのターゲットに、40フィート(12.2m)、30フィート(9.10m)、50フィート(15.2m)の順で、正確にキャストしなさい。

- タスク開始まえに60フィート(18.30m)のラインをリールから出し、30フィート位置まで引き込んでから開始する。
- ラインの調整は、フォルスキャスト中に空中で行うこと。
- 距離を調整する時は、ラインハンドでラインを握ることができるが、長さを決めたらロッドハンドにラインを移してからキャストする。
- ターゲットに当たらなかったら：
 - 40フィートのターゲットを外したら、30フィートターゲットの位置まで引き込んでから再トライ。
 - 30フィートのターゲットを外したら、40フィートターゲットの位置までラインを伸ばしてから再トライ。
 - 50フィートのターゲットを外したら、30フィートターゲットの位置まで引き込んでから再トライ。
- 各ターゲットにつき、最大で3回トライできる。
- ターゲットに向けてラインをシュートすることは禁止。
- フライは、ターゲットに向けてふわりと落とすとしても、叩き込んでもよい。

合格基準

- 冒頭に説明したパフォーマンス基準・要件が適用される。
- 最初の2つのターゲットにキャストする場合、フライは中心から15インチ(38.10cm)以内に落ちること。最も遠いターゲットでは、中心から18インチ(45.70cm)以内に落ちること。
- それぞれの距離において、理想的なトラジェクトリー(ループの傾斜)で投げること。

説明の質 合致した 実演	1回目の バック キャスト	直線的な アッパー レグ	ループの サイズ	バックと フォアの ループ 関係	180°の 原則	ティッキ ング	トラジェ クトリー	所定のパ フォーマ ンス基準	最終判断 P B F

コメント

タスク9 オフショルダー・アキュラシー

簡単な説明に続き、オフショルダー側でタスク8と同じアキュラシー・キャストイングを実演しなさい。

合格基準

- 冒頭に説明したパフォーマンス基準・要件が適用される。
- 最初の2つのターゲットにキャストする場合、フライは中心から15インチ(38.10cm)以内に落ちること。最も遠いターゲットでは、中心から18インチ(45.70cm)以内に落ちること。
- それぞれの距離において、理想的なトラジェクトリー(ループの傾斜)で投げること。

説明の質 合致した 実演	1回目の バック キャスト	直線的な アッパー レグ	ループの サイズ	バックと フォアの ループ 関係	180°の 原則	ティッキ ング	トラジェ クトリー	所定のパ フォーマ ンス基準	最終判断 P B F

コメント

タスク10 ダブルホール

簡単な説明に続き、ダブルホールを使って45フィート(13.70m)から65フィート(19.80m)までラインを伸ばしなさい。

- タスク開始まえに70フィート(21.30m)のラインをリールから出し、45フィート位置まで引き込んでから開始する。
- 45フィート位置で2回フォルスキャスト、それから最低4回のフォルスキャストを行いながら65フィートまで延長。65フィート位置で2回フォルスキャストを行って終了。
- ラインを伸ばすのはバックキャスト、フォワードキャストのいずれか、ないし両方。

合格基準

- 冒頭に説明したパフォーマンス基準・要件が適用される。
- ラインの長さに応じ、ホールの長さ、タイミングと力の入れ方を調整すること。
- ラインハンドとストリップングガイドの間にタルミを作らないこと。

説明の質 合致した 実演	1回目の バック キャスト	直線的な アッパー レグ	ループの サイズ	バックと フォアの ループ 関係	180°の 原則	ティッキ ング		所定のパ フォーマ ンス基準	最終判断 P B F

コメント

タスク 11 ディスタンスキャスト

簡単な説明に続き、最低 85 フィート(25.9m)のキャストを行いなさい。

- プレゼンテーション前に、少なくとも 2 回のフォルスキャストをすること。
- ラインのシューティング可。
- ホールの使用可。
- フォルスキャスト開始時のライン長は、60 フィート(18.3m)までとする。

合格基準

- 冒頭に説明したパフォーマンス基準・要件が適用される。
- 最初のバックループは最大 3 フィート(0.91m)とする。それ以降のループは 3 フィート(0.91m)を超過しても構わない。
- プレゼンテーション後のリーダーは比較的まっすぐに伸び、フライはラインの先端よりも先に落ちていること。

説明の質 合致した 実演	1回目の バック キャスト	直線的な アッパー レグ	180°の 原則	ティッキ ング				所定のパ フォーマ ンス基準	最終判断 P B F

コメント

タスク 12 オフショルダーもしくはバックキャスト・ディスタンスキャスト

簡単な説明に続き、オフショルダーもしくはバックキャスト（受験者が選択可能）で最低 75 フィート(22.9m)のキャストを行いなさい。

- タスク開始前、ラインはターゲットの方向に向けて伸ばしてあること。
- 少なくとも 6 回のキャストイング・ストロークを見せること。
- ラインのシューティング可。
- ホールの使用可。
- フォルスキャスト開始時のライン長は、60 フィート(18.3m)までとする。

合格基準

- 冒頭に説明したパフォーマンス基準・要件が適用される。
- プレゼンテーション後のリーダーは比較的まっすぐに伸び、フライはラインの先端よりも先

に落ちていること。

説明の質 合致した 実演	1回目の バック キャスト	直線的な アッパー レグ	180°の 原則	ティッキ ング				所定のパ フォーマ ンス基準	最終判断 P B F

コメント

水面でのパフォーマンス・タスク --- セクション 1B

特記がないかぎり、以下のタスクにおいてバックループの形はDでもVでも良い。どのくらい水に立ち込むかは、試験に参加する人たち全員の安全を考慮しながら、試験官と受験者が相談して決めるが、6インチ(15cm)の深さを標準と考える。シンキングラインのタスクにおいて、ラインが着水する地点の水深は1フィート(0.31m)以上とする。

タスク 13 スタティックライン・ロールキャスト (利き手サイド)

簡単な説明に続き、次の2種類のスタティック・ロールキャストを行いなさい。

- (a) ホールもシュートも行わない、50フィート(15.2m)キャスト。
- (b) シングルホールを行い、シュート可の55フィート(16.8m)キャスト。

- バックループは、水面から切れてしまわないようにゆっくりと作る。フォワードキャスト開始前には、後方へのループの動きが停止していること。
- バックループは、「ロッド全長+キャストの腕の長さ」を超過してキャストの後方に出ないこと。
- バックループを作るのに、後方にいったん下がってはならない。
- ロッドプレーンは、垂直位置から45°の間とする。

合格基準

- 冒頭に説明したパフォーマンス基準・要件が適用される。

説明の質 合致した 実演	Dループ のセット アップ	ループの サイズ	180°の 原則	ラインと リーダー のターン	スタティ ックライ ンか			所定のパ フォーマ ンス基準	P B F
a									
b									

タスクの総合判定： P B F

コメント

タスク 14 スタティックライン・ロールキャスト (オフショルダーサイド)

簡単な説明に続き、50 フィート(15.2m)のオフショルダー・スタティックライン・ロールキャストを行いなさい。ホールやシュートは行わない。

- バックループは、水面から切れてしまわないようにゆっくりと作る。フォワードキャスト開始前には、後方への動きが停止していること。
- バックループは、「ロッド全長+キャストの腕の長さ」を超過してキャストの後方に出ないこと。
- バックループを作るのに、後方にいったん下がってはならない。
- ロッドプレーンは、垂直位置から45°の間とする。

合格基準

- 冒頭に説明したパフォーマンス基準・要件が適用される。

説明の質 合致した 実演	Dループ のセット アップ	ループの サイズ	180°の 原則	ラインと リーダー のターン	スタティ ックライ ンか			所定のパ フォーマ ンス基準	P B F
a									
b									

コメント

タスク 15 スイッチキャスト (利き手サイド)

簡単な説明に続き、次の2種類のスイッチキャストを行いなさい。

- (a) ホールもシュートも行わない、Dループを使う55 フィート(16.8m)キャスト。
- (b) シングルホールを行い、シュート可の65 フィート(19.8m)キャスト。

- アンカー前のイニシャルリフトとスイープで、フライラインとリーダー、フライを完全に離水させること。
- (b)におけるスタート時ラインの長さは受験者の判断で良い。
- 方向転換は行わない。
- ラインを引きずってきてアンカーを作ることはできない。

合格基準

- 冒頭に説明したパフォーマンス基準・要件が適用される。
- キャスト全体を通じ、フライラインのテンションを維持できていること。
- デリバリーキャストは完全に空中に伸び、リーダーは比較的まっすぐに落ちること。

説明の質 合致した 実演	Dループ のセット アップ	直線的な アッパー レグ	ループの サイズ		アンカー の位置と 向き	180°の 原則		所定のパ フォーマ ンス基準	P B F
a									
b									

タスクの総合判定： P B F

コメント

タスク 16 シングルスペイ (利き手サイド)

簡単な説明に続き、最低45°の方向転換を伴う65フィート(19.8m)のシングルスペイ・キャストを行いなさい。ホールおよびシュート可。

- スタート時ラインの長さは受験者の判断で良い。
- ラインを引きずってきてアンカーを作ることはいできない。

合格基準

- 冒頭に説明したパフォーマンス基準・要件が適用される。
- キャスト全体を通じ、フライラインのテンションを維持できていること。
- デリバリーキャストは完全に空中に伸び、リーダーは比較的まっすぐに落ちること。

説明の質 合致した 実演	D/Vルー プのセッ トアップ	直線的な アッパー レグ	ループの サイズ	角度変更	アンカー の位置と 向き	180°の 原則		所定のパ フォーマ ンス基準	P B F

コメント

タスク 17 ダブルスペイ (利き手サイド)

簡単な説明に続き、最低90°の方向転換を伴う65フィート(19.8m)のダブルスペイ・キャストを行いなさい。ホールおよびシュート可。

合格基準

- 冒頭に説明したパフォーマンス基準・要件が適用される。
- 最初に行うライン位置直し動作の後は、テンションを維持できていること。
- デリバリーキャストは完全に空中に伸び、リーダーは比較的まっすぐに落ちること。

説明の質 合致した 実演	D/Vルー プのセッ トアップ	直線的な アッパー レグ	ループの サイズ	角度変更	アンカー の位置と 向き	180°の 原則		所定のパ フォーマ ンス基準	P B F

コメント

タスク 18 スナップキャスト (利き手サイド)

簡単な説明に続き、最低90°の方向転換を伴う65フィート(19.8m)のスナップキャスト(スナップTもしくはスナップC)を行いなさい。ホールおよびシュート可。

合格基準

- 冒頭に説明したパフォーマンス基準・要件が適用される。
- 最初に行うライン位置直し動作の後は、テンションを維持できていること。

- デリバリーキャストは完全に空中に伸び、リーダーは比較的まっすぐに落ちること。

説明の質 合致した 実演	D/Vルー プのセッ トアップ	直線的な アッパー レグ	ループの サイズ		角度変更	アンカー の位置と 向き	180°の 原則	所定のパ フォーマ ンス基準	P B F

コメント

タスク 19 スネークロール (利き手サイド)

簡単な説明に続き、90°の方向転換を伴う 65 フィート(19.8m)のスネークロール・キャストを行いなさい。ホールおよびシュート可。

合格基準

- 冒頭に説明したパフォーマンス基準・要件が適用される。
- キャスト全体を通じ、フライラインのテンションを維持できていること。
- デリバリーキャストは完全に空中に伸び、リーダーは比較的まっすぐに落ちること。

説明の質 合致した 実演	D/Vルー プのセッ トアップ	直線的な アッパー レグ	ループの サイズ		角度変更	アンカー の位置と 向き	180°の 原則	所定のパ フォーマ ンス基準	P B F

コメント

タスク 20 オフショルダー・スペイキャスト

簡単な説明に続き、90°以上の方向転換を伴う 55 フィート(16.8m)のスナップキャストないしダブルスペイ・キャストをオフショルダー側で行いなさい。ホールおよびシュート可。

合格基準

- 冒頭に説明したパフォーマンス基準・要件が適用される。
- 最初に行うライン位置直し動作の後には、テンションを維持できていること。
- デリバリーキャストは完全に空中に伸び、リーダーは比較的まっすぐに落ちること。

説明の質 合致した 実演	D/Vルー プのセッ トアップ	直線的な アッパー レグ	ループの サイズ		角度変更	アンカー の位置と 向き	180°の 原則	所定のパ フォーマ ンス基準	P B F

コメント

タスク 21 クイックキャスト--- ウエーディング時のライン管理

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

コメント

ティーチング・タスク --- セクション 2

このセクションは、キャストイング力学の深い理解に基づき、指定される生徒のレベルに応じた適切な用語を活用して、体系的で明快、簡潔な説明を行う能力があるかどうか判断するために設けられました。受験者のデモンストレーションは、人によってさまざまである学びのスタイルに対応できる、論理的な構成を備えていることが期待されます。その内容は相手を巻き込む力を持ち、生徒中心に構成され、自信に満ち、プロを感じさせるものであるべきです。

各タスクは、5分以内に終了しなければなりません。インストラクションやデモンストレーションに際しては、試験官の1人が生徒役を受け持ちます。

タスクに選択肢がある場合、受験者はリード試験官の指示に従います。

ティーチング・タスクの生徒レベル設定は、中級ないし上級です。

ティーチング・タスクのためのレベル設定

この試験で使用する「生徒のレベル」とは、以下を想定しています。

ビギナー：ピックアップ&レイダウンなどで、基本的なループは作ることができる。

中級者：キャストイング原理の基本を理解、ループコントロールもできる。シングルないしダブルホールができ、シューティングやキャストイング面の変更も可能だが、上達の余地はある。

上級者：CIレベルの技術がある。

ティーチング・タスクのスコアリング

各タスクは、4領域を設定したスコアカードを使って採点されます。そのスコアカードではP-B-Fスコアリング・システムを使用しますが、各タスクの最終判断はP(OK)ないしF(NG)しかありません。各領域において、1つでもF判定が付くとタスク全体がFと判断されます。B判定は、1つまでなら許容されます。試験合格のためには、ティーチング・タスクにすべて合格することが前提となっています。

ティーチング・タスクのパフォーマンス基準

パフォーマンスは、ティーチング4領域の中でそれぞれ設定されている以下の基準に合致することが期待されています。

コミュニケーションのうまさ	コンテンツの知識	ティーチングの方法	ティーチングのスタイル
<ul style="list-style-type: none">● 明快で簡潔● 体系的● 生徒の進歩を把握（注視と調整）	<ul style="list-style-type: none">● 適切な用語● 原理の理解	<ul style="list-style-type: none">● 理にかなった進め方● ステップへ分割● さまざまな学習スタイルに対応	<ul style="list-style-type: none">● 巻き込む● 生徒中心● 自信が見える● プロフェッショナル

タスク1 ループの形成

以下のうち1つを教えなさい。

- A. タスク1にある、ナローループの作り方。対象は中級者。
- B. タスク2にある、ワイド、ミディアムおよびナローループの投げ分け。対象は上級者。
- C. タスク3にある、利き手側およびオフショルダー側でのキャスト面の変更。対象は中級者。

コミュニケーションのうまさ	コンテンツの知識	ティーチングの方法	ティーチングのスタイル	最終判断
P B F	P B F	P B F	P B F	P F

コメント

タスク2 プレゼンテーション・キャストイング

以下のうち1つを教えなさい。

- A. タスク5にある、ターゲットをかわすメンディング(右および左)。対象は上級者。
- B. タスク6および7にある、カーブライン・プレゼンテーション(右もしくは左)。対象は上級者。左右のいずれにするかはリード試験官の指示に従うこと。
- C. タスク4にある、大小のスラックライン・ウェーブ。対象は中級者。

コミュニケーションのうまさ	コンテンツの知識	ティーチングの方法	ティーチングのスタイル	最終判断
P B F	P B F	P B F	P B F	P F

コメント

タスク3 ディスタンス・キャストイング

以下のうち1つを教えなさい。

- A. タスク10にあるダブルホール。対象は上級者。
- B. タスク11にあるディスタンスキャスト。対象は上級者。

コミュニケーションのうまさ	コンテンツの知識	ティーチングの方法	ティーチングのスタイル	最終判断
P B F	P B F	P B F	P B F	P F

コメント

タスク4 スペイクキャストイング

以下のうち1つを教えなさい。

- A. タスク 15(b)にあるスイッチキャスト、対象は上級者。
- B. タスク 16にあるシングルスペイ、対象は上級者。
- C. タスク 18にあるスナップキャスト、対象は中級者。

コミュニケーションのうまさ	コンテンツの知識	ティーチングの方法	ティーチングのスタイル	最終判断
P B F	P B F	P B F	P B F	P F

コメント

タスク5 「インストラクターに教える」

CI試験のパフォーマンス・セクションにあるタスクの中から試験官が選んだ1つのタスクを、CI試験受験者に教えなさい。ここでは、インストラクター・レベルの人を対象に教え方のスキルを伝え、育成する力が評価されます。

選定したタスク

コミュニケーションのうまさ	コンテンツの知識	ティーチングの方法	ティーチングのスタイル	最終判断
P B F	P B F	P B F	P B F	P F

コメント

タスク6 エラー・デモンストレーションと矯正

受験者は、以下8つの中から試験官チームが選定した3種類のエラーに関して 1) 自らエラーを実演し 2) その矯正策を説明して実演する。3つのエラーすべてに関してパスしないと、このタスクは合格にならない。それぞれのタスクに関して、持ち時間は上限5分とする。

- a. フォワードキャストにおいて、回転運動の開始が早すぎる
- b. テイリングループを生むクリープ
- c. フォワードないしバックキャストで力を入れすぎている
- d. キャスティングストロークにおける楕円形のトラッキング
- e. バックキャストで下方向に向けてリストを使いすぎている
- f. バックキャストでのテイリングを生む、不適切なダブルホール
- g. シングルスペイでのブラディールないしアンカー抜け
- h. 90°方向転換を行うスナップキャストでの不適切なアンカー位置

第1のエラー: _____

エラー実演	原因の提示	矯正策の提示	簡潔明瞭な説明	最終判断
P B F	P B F	P B F	P B F	P F

コメント

第2のエラー: _____

エラー実演	原因の提示	矯正策の提示	簡潔明瞭な説明	最終判断
P B F	P B F	P B F	P B F	P F

コメント

第3のエラー: _____

エラー実演	原因の提示	矯正策の提示	簡潔明瞭な説明	最終判断
P B F	P B F	P B F	P B F	P F

コメント

インタビューとディスカッション --- セクション 3

セクション 2 が終了したら、セクション 3 に進みます。これは、以下の領域における受験者の知識の深さを測定するインストラクター間の対話と考えてください。試験官が生徒役を受け持つことはありません。

合格基準：受験者は、キャストイングや釣りに関する文献書籍の理解および実体験に基づく広範囲な知識を持っていることが期待されています。発言の根拠はしっかりしていること、それらの見解を持つ理由を明快かつ簡単に説明できること。

インタビューのテーマとなる可能性のある領域は、優先順位順に並べると以下のとおりです。

- フライキャストイングの原則と物理
- エラー発見、診断、矯正
- ティーチングおよび指導の方法論
- フライフィッシングの用具
- フライフィッシングのテクニック
- 岸釣り、ウエーディング、ボートフィッシングなどの状況におけるエチケット

コメント

